

## サステナビリティを中心とした中長期事業戦略の実行

### イノベーション&DX

#### 中長期事業戦略を支えるイノベーション

ブリヂストングループは、2050年にもサステナブルなソリューションカンパニーとして、社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社であり続けるため、イノベーションで競争優位の源泉を強化していきます。

2022年4月、様々なステークホルダーの皆様と共に新たな価値を創造する共創の場として、東京・小平にあるイノベーション拠点「Bridgestone Innovation Park」の本格稼働を開始しました。当社グループは、コア事業であるタイヤ事業、成長事業であるソリューション事業、そして探索事業及び化工品・多角化事業において、バリューチェーン全体で社内外の様々なパートナーとの共創に取り組んでいます。この「Bridgestone Innovation Park」を活用し、社会・パートナー・お客様に当社グループのDNAやビジョンに共感いただきことから始め、共議・共研へと関係を深め、さらに新たな価値を共に創造する共創へと進化させ、イノベーションを加速させていきます。

#### ● Bridgestone Innovation Park:

共感から共創へ、イノベーションを通じて新たな価値を創造するグローバル拠点

当社グループは、1960年に東京工場、1962年に技術センターを、東京・小平に設立しました。工場と研究所が向き合い、協力して良い商品を生み出すことで、日本のモータリゼーションを支えると共に、半世紀以上にわたり地域社会に寄り添い、共に歩みを進めてきました。「Bridgestone E8 Commitment」を軸に「サステナブルなソリューションカンパニー」への変革を加速するタイミングで、新しい価値を創造し未来へつなげるため、中期事業計画(2021-2023)における重要な戦略的成長投資の一つとして、この「技術の小平」を再開発しました。

「Bridgestone Innovation Park」は次の3つの施設で構成されています。



#### ・Bridgestone Innovation Gallery<sup>\*1</sup>

当社グループの歩みやDNA、ビジョン、事業活動、さらに未来に向けた活動をご紹介し、当社とお客様、ステークホルダー、そして社会とをつなぐ新たな「共感」の場



Bridgestone Innovation Gallery

#### ・B-Innovation<sup>\*2</sup>

当社グループのコア技術や商品を実際に見て議論しアイディアを膨らませる「共議」、デジタルも組み合わせた設備も活用しながら共に研究開発を行い、アイディアを形にする「共研」、そして、それらを通じて様々なパートナーと新たな価値を創造しビジネスにつなげる「共創」の場



B-Innovation内のBridgestone Open Innovation Hub

#### ・B-Mobility<sup>\*2</sup>

パートナーと開発した技術や商品のプロトタイプを、実車を使ってすぐに体感・検証できるテストコース



B-Mobility

#### イノベーションを創出する新しい働き方

「Bridgestone Innovation Park」では、イノベーションを加速させるための働く場として、従業員一人ひとりが、いつも・どこでも・誰とでも、自分自身で多様な働き方を自由にデザインできるABW(Activity Based Working)を取り入れています。また、一人ひとりがより熱意をもって積極的に働き、自らの「成長と幸せ」とブリヂストンの成長の両立を目指した、よ

り一層の自主性を尊重する組織風土の変革にも取り組んでいます。これらの働く場と働き方・意識を一体化した変革により、様々な人・技術・情報に出会うことができる「Bridgestone Innovation Park」のオフィスや研究設備を最大限に活用し、一人ひとりのパフォーマンスの向上と共創によるイノベーションを促進していきます。

\*1 2020年11月に一般公開開始

\*2 2022年4月に開設

## グローバルイノベーション拠点との共創

グローバルそれぞれの地域においても、イノベーション拠点を整備、連携を推進しています。「Bridgestone Innovation Park」を核として、イタリア・ローマの「Digital Garage」、

米国オハイオ州アクロンの「Mobility Lab」などのグローバル拠点との連携を強化し、共創に向けてイノベーションを加速していきます。



## 共創を通じたイノベーションの加速に向けて

当社グループは、「Bridgestone E8 Commitment」を軸とし、共創を通じて技術・ビジネスモデル・デザインのイノベーションを加速しながら従業員、社会、パートナー、お客様と共に持続可能な社会を実現し、支えることに取り組んでいきます。当社グループが91年の歴史の中で培ってきたコアコンピタンス、匠の技としての強い「リアル」に、シミュレーションなどの「デジタル」技術を融合し、ブリヂストン流のDXを進化させていきます。

### ● 強い「リアル」と「デジタル」の融合によるイノベーション

粘弾性という独特な特性を持つゴムは、開発・生産現場での扱いが非常に難しく、その困難さを克服するために活用してきた

圧倒的な経験値やデータに支えられたゴムを「見る・解く・操る」という「ゴムを極める」技術や様々なタイヤの使用環境・使用条件を熟知した「接地を極める」技術は当社グループの強い「リアル」につながっています。

この強い「リアル」に、独自のシミュレーション・アルゴリズムなどの「デジタル」を融合し活用することで、当社グループの知識、ノウハウ、技術を結集させたエンジニアリングチェーン、バリューチェーン全体を通じての共創により、さらなる「断トツ商品」、「断トツソリューション」を生み出していくます。



## 高度設計シミュレーション

当社グループが蓄積してきた、質の高い市場データやタイヤ・ゴムの知見に、構造CAE（コンピューターでデジタル分析する技術）を組み合わせた高度設計シミュレーションを活用することで、雪道や濡れた路面の上だけではなく、土・砂の上でのタイヤの変形や接地挙動などのシミュレーションも可能となります。それ以外にも、タイヤとサスペンション、タイヤと車両といった複合シミュレーションなども可能です。当社グループの「断トツ商品」である鉱山向けタイヤ「Bridgestone MASTERCORE」や、EVへの装着に最適なタイヤ基盤技術「ENLITEN」も、強い「リアル」と高度な設計シミュレーション、すなわち「デジタル」の融合によって開発されたものです。

## 素材・配合シミュレーション

多様なゴム材料を扱う中で培ってきた膨大なラボデータは、強い「リアル」の中でも当社グループのコアになる部分といえます。このラボデータにナノレベルの分子CAEを組み合わせることで、高度な素材・配合シミュレーションが可能となり、従来の素材を超える高い機能を持つ革新的な素材開発を加速させていきます。

## シミュレーションに活用される独自のアルゴリズム

独自のアルゴリズムを活用したシミュレーションを用いてお客様の走行データをリアルタイムに解析することで、お客様が運転する車両のタイヤの状態を正確に把握することができます。この独自のアルゴリズムは、世界の道を知り、世界中のお客様のデータを高精度で入手できる当社だからこそ開発できるものと考えています。今後もこのようなアルゴリズム開発をさらに強化し、「断トツソリューション」を進化させることで、新たな社会価値・顧客価値を提供していきます。

## ブリヂストン流DXの推進

ブリヂストングループでは、モビリティがデジタル技術によってあらゆる情報とつながるMaaS、CASEといった進化するモビリティ社会を足元から支え続けるため、ブリヂストン流のDXを推進しています。

ブリヂストン流DXのテーマは、「より大きなデータで、より早く、より容易に、より正確に」。当社グループの91年の歴史の中で培ってきた強い「リアル」としての、扱いにくい素材である「ゴムを極める」技術や、タイヤに関する知見と匠の技に、「デジタル」を組み合わせたシミュレーション技術やデジタルフリートソリューションなど、素材・商品開発から、社会・お客様へのソリューションの提供まで、バリューチェーン全体でのイノベーションを加速させることを目指し、DXを推進しています。

### ● デジタル人財の育成強化

当社グループのDXは、イノベーションを加速させ、革新的なタイヤとソリューションで社会価値・顧客価値を創出しながら、進化するモビリティ社会を支え続けていくために不可欠なものです。

そのため、DXの推進やソリューション事業の拡大を担う、中級以上の高度デジタル人財の育成に特に力を入れており、M&Aを経て当社グループの仲間となったWebfleet SolutionsやAzugaの仲間たちとの人財交流も促進しています。また、社外との連携を通じた育成、採用を強化しています。例えば大学において、当社が派遣する社員と学生の皆様が一緒に演習や研究を行うブリヂストン寄付講座の開設や、国内外の大学院博士課程に社員を派遣する社外留学制度を導入しています。

## 目標と実績

2021年には、Azugaの買収完了により約300名のデジタル人財が当社グループの仲間に加わり、当社グループの中級以上の高度デジタル人財の在籍数は約1,200人になりました。2022年も採用と育成を引き続き進め、約1,400人へと拡大し

ていく計画です。当社グループの目指すDXの実現、サステナブルなソリューションカンパニーへの進化に向けた組織能力強化の一環として、デジタル人財の育成を今後も加速していきます。



### 教育機関との連携：「ブリヂストン×東北大学共創ラボ」

2021年10月より、国立大学法人東北大学との産学連携拠点を設置し、ブリヂストン流のDXを支えるデジタル人財を育成するための共同プロジェクトを開始しました。AIやアルゴリズムの企画開発を通じてソリューションビジネスや研究開発の中核を担う「AI/アルゴリズムエキスパート」や、ビジネスの現場で課題を抽出し、デジタル技術を用いたソリューションの提案につなげることができる「ソリューションフィールドエンジニア」の育成を目的とするものです。東北大学における最先端のデータ科学をはじめ多様な研究教育で培われた指導力と、課題解決型学習ノウハウを駆使した実践的な独自のプログラム、そして参画する研究室との共同研究や交流を通じて、高度なスキルを持つ、より実践的なデジタル人財を育成していきます。